七条中学校だより１１月6号

京都市立七条中学校
令和8年11月10日
発行：校長 林 秀雄

家庭学習と定期テストに向けて7 「覚える学習」から「つなげる学習」へ

定期テストまで、いよいよ8日前となりました。この時期になると、単語や用語、年号や公式などを一生懸命覚えようとしている人も多いことでしょう。もちろん、「覚えること」は大切です。しかし、テストで高い力を発揮するためには、覚えるだけでは十分ではありません。皆さんは、こんな経験はありませんか。「昨日覚えたはずなのに思い出せない。」「用語は知っているけれど、問題になると答えられない。」「ワークではできたのに、少し問題の形が変わると解けない。」これは、知識がバラバラのままで、「つながっていない」状態です。

例えば、

- ●社会であれば、出来事の名前だけを覚えるのではなく、「なぜ起こったのか」「その後どうなったのか」までつなげて考えることが大切です。
- ●理科であれば、用語だけでなく、「なぜその現象が起こるのか」という理由を説明できるようになることが重要です。
- ●英語であれば、単語だけを覚えるのではなく、本文や会話の中でどのように使われているのかを理解することが必要です。
- ●数学も公式を暗記するだけではありません。「なぜその公式を使うのか」「どんな問題で使うのか」を理解することで、本当の力になります。
- ●国語も同じです。漢字や語句だけでなく、文章全体の流れや筆者の考え、登場人物の心情などを関連付けながら考えることが求められます。

つまり、学力が伸びる人は、**「覚える学習」から「つなげる学習」へ進んでいる人**なのです。

そこで、テスト前の今、ぜひ取り組んでほしい勉強方法があります。

- ●「なぜ？」を自分に問いかける。
- ●学習内容を図や矢印でつなげて整理する。
- ●関連する単元を見返して共通点を探す。
- ●学んだ内容を家族や友達に説明してみる。
- ●問題の答えだけでなく、その理由まで言葉にする。

例えば、社会の歴史なら「出来事→原因→結果」、理科なら「現象→理由→結論」、数学なら「公式→使う場面→解き方」というように整理すると、理解が深まります。また、勉強していて分からない問題に出会ったとき、すぐに答えを見るのではなく、「どこまでは分かるのか」を考えてみましょう。実は、この悩む時間こそが脳を成長させる時間です。以前、学校だよりで紹介した「本質を理解する学習」とは、このような学習のことです。単に正解を覚えるだけでなく、「なぜそうなるのか」「他の場合にも使えるのか」を考えることが、本当の学力につながります。定期テストは、覚えた量だけを競うものではありません。学んだ知識をどれだけ理解し、活用できるかを確かめる機会でもあります。

定期テストまであと8日。問題集のページを進めることも大切ですが、一度立ち止まって「この知識は何とつながっているだろう」「なぜそうなるのだろう」と考えてみてください。知識と知識がつながったとき、勉強は「覚えるもの」から「分かるもの」へ変わります。そして、その積み重ねが、テストの点数だけではなく、高校や社会に出てからも役立つ本当の学力になっていくはずです。

華道体験を終えて

11月5日、1年生が華道体験を行いました。講師の先生方のご指導のもと、生徒たちは実際に花と向き合い、日本の伝統文化である華道の世界に触れる貴重な機会となりました。

体験前、生徒の多くは「花を挿して飾るだけのもの」というイメージを持っていました。しかし実際に取り組んでみると、花の向きや角度、高さ、長さ、全体のバランスなどを考えながら作品を作り上げることの難しさと奥深さを実感したようです。「思ったより難しかった」「集中して取り組めた」「華道の奥深さが分かった」といった感想が多く見られました。さらに、花を長持ちさせるための切り方や、細い茎を安定して立たせる工夫など、先人たちの知恵に触れ、「華道にはたくさんの工夫が詰まっている」と驚く声もありました。

また、生徒たちにとって大きな発見となったのは、同じ花材を使っているにもかかわらず、一人ひとり、まったく異なる作品が完成したことです。「同じ花なのに全然違う作品になった」「個性が表れていて面白かった」「何兆通りもの組み合わせがあることに驚いた」という感想からは、華道が正解を求めるものではなく、自分らしさや感性を表現する文化であることを実感した様子が伝わってきました。これは、

裏へ

自分の個性だけでなく、友達の個性や考え方を認めることにもつながる学びだったと感じます。
さらに、生徒たちは花や自然を見る目も変化させていました。「花にも顔があることに気付いた」「花にも個性があると思った」「自然の美しさや力強さを感じた」といった感想が多く寄せられ、普段何気なく目にしている草花を、これまでとは違う視点で見つめる機会となりました。中には「自然への見方が変わった」という声もあり、華道を通して感性を育む時間になったことがうかがえます。
事前学習では、「なぜ華道は千年以上も受け継がれてきたのだろう」という問いについて考えました。体験後には、「受け継がれてきた理由が分かった」「昔の人の思いや工夫を感じた」「日本の伝統文化に興味を持った」という感想が見られました。実際に体験することで、華道が単なる技術ではなく、自然を大切にする心や人それぞれの感性を尊重する文化であることを学ぶことができました。
今回の華道体験は、花を生ける技術を学ぶだけでなく、自分自身や自然と静かに向き合う時間となりました。忙しい毎日の中で、物事をじっくり観察し、丁寧に向き合う経験は決して多くありません。生徒たちには、この体験で得た感性や相手の個性を認める心、日本の伝統文化への関心を、これからの学校生活や人との関わりの中でも生かしてほしいと思います。

地震から考える「備え」

11月8日（日）深夜、静岡県西部を震源とする地震が発生しました。京都でも短い時間でしたが揺れを感じた人もいたのではないでしょうか。日本は世界でも有数の地震大国です。私たちはこれまでも大きな地震や自然災害を経験してきました。しかし、災害は「いつか来るもの」ではなく、「いつ起こるか分からないもの」です。そのため、日頃からの備えが大切になります。
皆さんは、地震が起きたときにどのように行動すればよいか考えていますか。授業中なら机の下に身を隠すことができます。しかし、登下校中、家庭で過ごしているとき、休日に外出しているときはどうでしょうか。その場に応じて、自分で考えて行動する力が求められます。学校では避難訓練を行っています。「訓練だから」と何となく参加するのではなく、「本当に地震が起きたら」という意識で取り組むことが大切です。訓練で確認したことが、いざという時に自分や大切な人の命を守ることにつながります。
また、家庭でもぜひ話し合ってみてください。
●地震が起きたときの避難場所はどこか。　●家族と連絡が取れなくなったとき、どのように行動するか。
●非常時の持ち出し品は準備できているか。●家具の転倒防止などの対策はできているか。
災害への備えは特別なことではありません。日頃から少し意識し、準備をしておくことが大切です。
安全で健康な生活があってこその学習です。今回の地震をきっかけに、自分や家族の命を守るために何ができるのかを考え、「備え」について見直してみましょう。普段は意識しないことかもしれませんが、いざという時のために準備しておくことは、未来の自分や大切な人を守ることにつながります。

インフルエンザに注意！ 定期テスト1週間前、健康管理を

京都市感染症情報センターによると、最新週（第44週）の京都市のインフルエンザ定点当たり報告数は8.03となっています。流行入りの目安（1.0）を大きく上回っており、依然として注意が必要な状況です。なお、注意報レベルは10.0以上とされており、京都市の状況はその水準に近い状態です。 また、京都府全体でも定点当たり報告数は8.21となっており、府内では地域によって注意報レベルに達しているところもあります。
さて、定期テストまで残り1週間となりました。これまで学習方法や家庭学習について考えてきましたが、どれだけ勉強を頑張っていても、本番で体調を崩してしまっては十分に力を発揮することができません。「健康管理」もテストに向けた大切な準備の一つです。
睡眠時間を削って遅くまで勉強する人もいるかもしれません。しかし、睡眠不足は集中力や記憶力の低下につながります。学習した内容をしっかり定着させるためにも、規則正しい生活を心掛けましょう。また、手洗い・うがい、換気、人混みの多い場所では必要に応じてマスクを着用するなど、基本的な感染症対策も大切です。
さらに、朝食をしっかり食べること、バランスのよい食事を心掛けることも、免疫力を保つためには欠かせません。「まだ大丈夫」と思っていても、疲れがたまると体調を崩しやすくなります。土日も含めて生活リズムを整え、毎日元気に登校できる状態を維持しましょう。
定期テストは、これまで積み重ねてきた努力の成果を発揮する場です。勉強時間だけでなく、睡眠・食事・休養を含めた健康管理にも意識を向け、自分の力を最大限発揮できるよう準備を進めてください。テスト勉強と健康管理、その両方に取り組むことが、目標達成への近道です。